

CASBEEさいたま2016年版
日本赤十字看護大学さいたま看護学部

欄に数値またはコメントを記入

 ■使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版
 ■評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.1.0

スコアシート		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質								3.3
Q1 室内環境					0.40	-	-	3.0
1 音環境				3.2	0.15	-	-	3.2
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40	3.0	-	
1.2 遮音				3.6	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能		Dr-45以上確保。		3.0	0.30	3.0	-	
2 界壁遮音性能				5.0	0.30	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	0.20	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	0.20	3.0	-	
1.3 吸音				3.0	0.20	3.0	-	
2 温熱環境				2.6	0.35	-	-	2.6
2.1 室温制御				3.0	0.50	-	-	
1 室温				3.0	0.60	3.0	-	
2 外皮性能				3.0	0.40	3.0	-	
3 ゾーン別制御性				3.0	-	-	-	
2.2 湿度制御				1.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境				3.1	0.25	-	-	3.1
3.1 屋光利用				3.4	0.30	-	-	
1 屋光率				3.0	0.60	3.0	-	
2 方位別開口				-	-	3.0	-	
3 屋光利用設備		屋窓を計画。		4.0	0.40	3.0	-	
3.2 グレア対策				3.0	0.30	-	-	
1 屋光制御				3.0	1.00	3.0	-	
3.3 照度				3.0	0.15	3.0	-	
3.4 照明制御				3.0	0.25	3.0	-	
4 空気質環境				3.5	0.25	-	-	3.5
4.1 発生源対策				4.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		基準を満たす建築材料を採用。		4.0	1.00	3.0	-	
4.2 換気				3.0	0.30	-	-	
1 換気量				3.0	0.33	3.0	-	
2 自然換気性能				3.0	0.33	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.33	3.0	-	
4.3 運用管理				3.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視				1.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御		全館禁煙としている。		5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.5
1 機能性				3.7	0.40	-	-	3.7
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	-	-	
1 広さ・収納性				3.0	-	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応				3.0	-	3.0	-	
3 バリアフリー計画				3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性				3.5	0.30	-	-	
1 広さ感・景観				2.0	0.50	3.0	-	
2 リフレッシュスペース				3.0	-	-	-	
3 内装計画		要求される機能を踏まえた内装計画としている。		5.0	0.50	-	-	
1.3 維持管理				5.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		維持管理に配慮した設計において、取組みが充実。		5.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		維持管理用機能の確保において、取組みが充実。		5.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性				3.4	0.30	-	-	3.4
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.8	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		重要度係数1.25を考慮した設計としている。		4.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.2	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		主要配管材 A×1種、B×4種、C×1種		5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性				3.0	0.20	-	-	
1 空調・換気設備				3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20	-	-	
3 電気設備				3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		耐震クラスAに設定している。		4.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備				2.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.2	0.30	-	-	3.2
3.1 空間のゆとり			4.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高3.7以上を確保。	4.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.1以上0.3未満	4.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性			2.8	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		2.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.5
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			4.0	0.40	-	-	4.0
積極的に緑化したオープンスペースを設けることで、周辺環境に配							
3 地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30	-	-	3.5
オープンスペースを設け、地域へ配慮							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			4.0	0.50	-	-	
積極的な緑化により、温熱環境を向上。							
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.7
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.1
1 建物外皮の熱負荷抑制			[BPI _m]= 0.54	5.0	0.20	-	5.0
2 自然エネルギー利用			クールウォームピットを採用している。	4.0	0.10	-	4.0
3 設備システムの高効率化			[BEI][BEI _m] = 0.70	4.0	0.50	-	4.0
4 効率的運用				3.5	0.20	-	3.5
集合住宅以外の評価				3.5	1.00	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	年間のエネルギー消費量を算出し、建築主へ提出する。	4.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.5
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水			節水型の小便器採用。擬音装置を採用。	4.0	0.40	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.7	0.60	-	-	3.7
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.10	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	陶磁器質タイル、ビニル系床材、フローリング、タイル、ビニル床材、	5.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.10	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	再利用可能な部材を積極的に採用。	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			有害物質を含まない材料を採用。	4.0	0.30	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.70	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮			LCCO2排出量=53.46 kg-CO2/年㎡	3.8	0.33	-	3.8
2 地域環境への配慮				3.1	0.33	-	3.1
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			積極的に緑化し、温熱環境に配慮。	3.0	0.50	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.5	0.25	-	
1	雨水排水負荷低減	外周部を積極的に緑化し、自然浸透させ、最終枒は全て浸透枒を採	4.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	適切な駐車スペースを確保。	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	
1	騒音		3.0	0.50	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		3.0	0.50	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制				3.0	0.20	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	